



## 平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月2日

上場会社名 キックマン株式会社

上場取引所 東

コード番号 2801 URL <http://www.kikkoman.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堀切 功章

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 コーポレートコミュニケーション部長 (氏名) 臼井 一起

TEL 03-5521-5811

四半期報告書提出予定日 平成25年8月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	83,979	13.8	6,497	28.4	5,508	22.8	4,023	65.2
25年3月期第1四半期	73,786	—	5,062	—	4,487	—	2,434	—

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 9,643百万円 (—%) 25年3月期第1四半期 △1,056百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	20.13	20.12
25年3月期第1四半期	12.00	—

(注) 25年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率は、会計方針の変更に伴い遡及適用が行われたため、記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	346,072	—	193,221	—	55.5	—
25年3月期	337,051	—	187,459	—	55.2	—

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 191,934百万円 25年3月期 186,168百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	0.00	—	18.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	163,250	11.0	11,650	12.9	10,100	10.2	6,100	27.6	30.52
通期	327,000	8.9	22,500	13.6	20,500	9.6	12,500	13.6	62.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

対前期増減率及び対前年同四半期増減率は、会計方針の変更に伴い遡及適用が行われたため、遡及処理後の数値との比較によるものです。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料 5 ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料 5 ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期1Q	210,383,202 株	25年3月期	210,383,202 株
26年3月期1Q	10,475,090 株	25年3月期	10,651,103 株
26年3月期1Q	199,843,796 株	25年3月期1Q	202,870,944 株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料 5 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

第1四半期決算補足説明資料は、TDnetで本日開示するとともに、当社ホームページにも掲載しています。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	5
3. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期における世界経済は、米国で緩やかに景気が回復しているものの、欧州の債務危機が引き続き景気の下振れリスクとなっており、全体としては弱い回復が続いております。日本経済は、輸出や個人消費が持ち直すなど、着実に上向きつつあります。

このような状況下における、当社グループの売上は、国内については、しょうゆ、食品が売上を伸ばしたことにより、食料品製造・販売は前年同期を上回りました。海外については、しょうゆは北米・欧州を中心に売上を伸ばし、食料品卸売事業も好調に推移し、前年同期の売上を上回りました。

その結果、当第1四半期の連結業績は次の通りとなりました。

## &lt;連結業績&gt;

(単位 百万円, %)

区 分	前年同四半期		当第1四半期		対前年同四半期			為替差	為替差除	
	24年4月1日～ 24年6月30日		25年4月1日～ 25年6月30日		金 額	%	売上 比差		金 額	%
	金 額	売上比	金 額	売上比						
売 上 高	73,786	100.0	83,979	100.0	10,193	113.8	—	7,010	3,183	104.3
営 業 利 益	5,062	6.9	6,497	7.7	1,435	128.4	0.8	742	693	113.7
経 常 利 益	4,487	6.1	5,508	6.6	1,021	122.8	0.5	619	401	108.9
四 半 期 純 利 益	2,434	3.3	4,023	4.8	1,588	165.2	1.5	520	1,067	143.8
	USD	80.40	97.94		17.54					
	EUR	103.35	127.35		24.00					

## &lt;報告セグメント&gt;

(単位 百万円, %)

区 分		前年同四半期		当第1四半期		対前年同四半期			為替差	為替差除	
		24年4月1日～ 24年6月30日		25年4月1日～ 25年6月30日		金 額	%	売上 比差		金 額	%
		金 額	売上比	金 額	売上比						
国内 食料品製造 ・販売	売 上 高	39,323	100.0	40,038	100.0	714	101.8	—	—	714	101.8
	営業利益	1,562	4.0	1,358	3.4	△ 203	87.0	△0.6	—	△ 203	87.0
国内 その他	売 上 高	5,120	100.0	5,206	100.0	85	101.7	—	—	85	101.7
	営業利益	395	7.7	403	7.8	8	102.1	0.0	—	8	102.1
海外 食料品製造 ・販売	売 上 高	12,311	100.0	15,318	100.0	3,007	124.4	—	2,565	441	103.6
	営業利益	2,242	18.2	3,040	19.8	798	135.6	1.6	495	302	113.5
海外 食料品卸売	売 上 高	22,142	100.0	28,628	100.0	6,485	129.3	—	4,775	1,709	107.7
	営業利益	1,085	4.9	1,488	5.2	403	137.1	0.3	192	210	119.4
調整額	売 上 高	△ 5,112	100.0	△ 5,212	100.0	△ 100	—	—	△ 331	231	—
	営業利益	△ 222	—	206	—	429	—	—	53	375	—
四半期連結 損益計算書 計上額	売 上 高	73,786	100.0	83,979	100.0	10,193	113.8	—	7,010	3,183	104.3
	営業利益	5,062	6.9	6,497	7.7	1,435	128.4	0.8	742	693	113.7
	USD	80.40		97.94		17.54					
	EUR	103.35		127.35		24.00					

(注) 「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間より、一部の国内連結子会社につきまして、収益認識基準を変更しております。

前年同四半期については、当該会計方針を遡及適用後の数値となっております。

各報告セグメントの状況は次の通りであります。

**【国内】**

国内における売上の概要は次の通りであります。

**(国内 食料品製造・販売事業)**

当事業は、しょうゆ部門、つゆ・たれ・デルモンテ調味料等の食品部門、豆乳飲料・デルモンテ飲料等の飲料部門、みりん・ワイン等の酒類部門からなり、国内において当該商品の製造・販売を手がけております。各部門の売上の概要は次の通りであります。

**■しょうゆ部門**

しょうゆは、「いつでも新鮮」シリーズで、生活者のニーズに合った「やわらか密封ボトル」450mlの容器を前期に投入し、「新鮮な生しょうゆのおいしさ」「鮮度維持」とあわせて「使いやすさ」という付加価値の提案を行い、新たなカテゴリーを着実に拡大させ、部門全体として前年同期を上回りました。

**■食品部門**

つゆ類は、家庭用分野では、主力商品の「本つゆ」やストレートつゆが好調に推移し前年同期を上回りました。加工・業務用分野でも売上を伸ばし、つゆ類全体として前年同期を上回りました。たれ類は、主力商品である「わが家は焼肉屋さん」が、新商品の「しょうゆ糀のつけこみだれ」の貢献もあり順調に推移し、「ステーキしょうゆ」も堅調に売上を伸ばし、たれ類全体として前年同期の売上を上回りました。「うちのごはん」は、積極的な新商品開発やテレビ広告、店頭販促活動を行い、市場の拡大を牽引し、前年同期の売上を大きく上回りました。デルモンテ調味料は、ケチャップ類は「ケチャップ・ハーフ」等の新商品の貢献もあり前年同期を上回ったものの、全体として前年同期並となりました。この結果、部門全体として前年同期の売上を上回りました。

**■飲料部門**

豆乳飲料は、健康志向の高まりを背景に飲用だけでなく料理用として訴求する等、テレビや雑誌などの各メディアと連携を図りながら、市場拡大につながる販促活動を積極的に実施し、また、「豆乳飲料マンゴー」等の新商品も好調であり前年同期の売上を上回りました。デルモンテ飲料は、ギフト商品を中心としたフルーツジュースや「朝トマト」等の新商品の寄与に加えて、デルモンテ50周年記念キャンペーンなどの積極的な販促活動を行いました。しかしながら、前年大きく売上を伸ばしたトマトジュースの売上拡大が一巡したこともあり、デルモンテ飲料全体としては前年同期の売上を下回りました。この結果、部門全体としては、前年同期の売上を若干下回りました。

**■酒類部門**

本みりんは、家庭用1Lを中心とした主力アイテムが好調に推移し、本みりん全体として前年同期の売上を上回りました。国産ワインは、業務用分野で売上を伸ばしました。輸入ワインも市場開拓に取り組んだ結果、前年同期を上回りました。この結果、部門全体として前年同期の売上を上回りました。

以上の結果、国内 食料品製造・販売事業の売上高は400億3千8百万円（前年同期比101.8%）、営業利益は13億5千8百万円（前年同期比87.0%）と、増収減益となりました。

**(国内 その他事業)**

当事業は、臨床診断薬・衛生検査薬・加工用酵素、ヒアルロン酸等の化成品等の製造・販売、不動産賃貸及び運送事業、グループ会社内への間接業務の提供等を行っております。

臨床診断薬、ヒアルロン酸等の化成品等が好調に推移し前年同期の売上を上回りました。

この結果、国内 その他事業の売上高は52億6百万円（前年同期比101.7%）、営業利益は4億3百万円（前年同期比102.1%）と、ともに前年同期を上回りました。

**【海外】**

海外における売上の概要は次の通りであります。

**(海外 食料品製造・販売事業)**

当事業は、しょうゆ部門、デルモンテ部門、海外における健康食品等のその他食料品部門からなり、海外向けの輸出版売及び海外において当該商品の製造・販売を手がけております。各部門の売上の概要は次の通りであります。

**■しょうゆ部門**

北米市場においては、家庭用分野では、主力商品であるしょうゆに加え、しょうゆをベースとした調味料などの拡充に引き続き力を入れ、当社のブランド力を生かした事業展開を行ってまいりました。また、加工・業務用分野では顧客のニーズに合わせたきめ細かい対応を行ってまいりました。この結果、全体として前年同期の売上を上回りました。

欧州市場においては、最需要国であるロシアをはじめ、重点市場であるドイツ、イギリスでも順調に売上を伸ばし、全体として2桁成長を維持しました。

アジア・オセアニア市場は、タイで販売数量が前年を上回り堅調に推移しましたが、フィリピンやマレーシアの売上が苦戦し、全体として前年同期の売上を下回りました。

この結果、部門全体では為替換算の影響もあり前年同期の売上を大きく上回りました。

**■デルモンテ部門**

当部門は、アジア・オセアニア地域で、フルーツ缶詰・コーン製品、トマトケチャップ等を製造・販売しております。

香港市場向けは堅調に推移しましたが、韓国や中国市場向けの売上が一時的に落ち込みました。全体としては、為替換算の影響により前年同期の売上を上回りました。

**■その他食料品部門**

当部門は、主に北米地域において、健康食品を製造・販売しております。

医師ルート向けの売上が引き続き好調に推移したことから、部門全体では前年同期の売上を上回りました。

以上の結果、海外 食料品製造・販売事業の売上高は153億1千8百万円（前年同期比124.4%）と前年同期を上回りました。営業利益は30億4千万円（前年同期比135.6%）と増益となりました。

**(海外 食料品卸売事業)**

当事業は、国内外において、東洋食品等を仕入れ、販売しております。

北米では、アジア系マーケットにとどまらず、ローカルマーケットへのさらなる浸透を進め、売上を伸ばしました。また、欧州、オセアニアでは引き続き市場拡大が続いており、各地域で順調に推移いたしました。この結果、前年同期の売上を上回りました。

この結果、海外 食料品卸売事業の売上高は286億2千8百万円（前年同期比129.3%）となり、増収となりました。営業利益は14億8千8百万円（前年同期比137.1%）と、増益となりました。

以上の結果、当第1四半期の連結業績は、売上高は839億7千9百万円（前年同期比113.8%）、営業利益は64億9千7百万円（前年同期比128.4%）、経常利益は55億8百万円（前年同期比122.8%）、四半期純利益は40億2千3百万円（前年同期比165.2%）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は、1,289億9千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ29億8千6百万円増加いたしました。これは主に、受取手形及び売掛金が増加したことによるものであります。固定資産は2,170億7千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ60億3千3百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産、投資有価証券が増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、3,460億7千2百万円となり、前連結会計年度末に比べ90億2千万円増加いたしました。

## (負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は、486億1千万円となり、前連結会計年度末に比べ24億4千7百万円増加いたしました。これは主に、支払手形及び買掛金が増加したことによるものであります。固定負債は、1,042億4千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億1千1百万円増加いたしました。これは主に、繰延税金負債、環境対策引当金が増加したことによるものであります。

この結果、負債の部は1,528億5千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ32億5千9百万円増加いたしました。

## (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の部は、1,932億2千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ57億6千1百万円増加いたしました。これは主に、為替換算調整勘定、その他有価証券評価差額金が増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は55.5%（前連結会計年度末は55.2%）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績につきましては、最近の決算短信（平成25年4月26日発表）により開示を行った業績予想から変更はありません。なお、業績等に影響を与える事業等のリスクについては、最近の有価証券報告書（平成25年6月25日提出）により開示を行った内容から重要な変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

## 税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

## 会計方針の変更

## (収益認識基準の変更)

当社の国内連結子会社では、従来、主として出荷基準により収益を認識しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より、一部の国内連結子会社につきまして、契約条件等に基づき納品日に収益を認識する方法に変更しております。この変更は、顧客との取引関係において実態により即したものにすべく、請求の計上日を納品日に変更することに顧客との間で合意し、これに対応するためのシステムの整備が完了したことから、売上の実態をより適切に反映させるために行ったものであります。

なお、前年同四半期及び前連結会計年度については、当該会計方針を遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。

この結果、遡及適用を行う前に比べて、前第1四半期連結累計期間の売上高は3億6千万円増加しており、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1億4千4百万円増加しております。また、前連結会計年度の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、利益剰余金の前期首残高は3億9千万円減少しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	30,598	28,226
受取手形及び売掛金	44,053	46,685
有価証券	131	131
商品及び製品	23,984	25,775
仕掛品	10,405	10,614
原材料及び貯蔵品	3,861	4,136
繰延税金資産	5,610	4,731
その他	7,570	8,922
貸倒引当金	△205	△227
流動資産合計	126,010	128,996
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	42,529	45,199
機械装置及び運搬具(純額)	32,542	34,598
土地	20,039	20,473
リース資産(純額)	181	176
建設仮勘定	5,351	3,661
その他(純額)	3,048	3,626
有形固定資産合計	103,693	107,735
無形固定資産		
のれん	21,792	21,382
その他	3,675	3,896
無形固定資産合計	25,468	25,279
投資その他の資産		
投資有価証券	70,858	72,985
長期貸付金	691	698
繰延税金資産	1,112	1,036
その他	9,948	10,073
貸倒引当金	△732	△734
投資その他の資産合計	81,879	84,060
固定資産合計	211,041	217,075
資産合計	337,051	346,072



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,005	18,444
短期借入金	7,338	7,337
リース債務	57	58
未払金	13,412	14,902
未払法人税等	2,095	2,149
賞与引当金	2,172	933
役員賞与引当金	84	23
その他	4,995	4,760
流動負債合計	46,162	48,610
固定負債		
社債	70,000	70,000
長期借入金	15,600	15,600
リース債務	94	91
繰延税金負債	5,699	6,309
退職給付引当金	4,271	4,378
役員退職慰労引当金	967	878
環境対策引当金	321	509
その他	6,475	6,474
固定負債合計	103,429	104,241
負債合計	149,591	152,851
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,599	11,599
資本剰余金	21,227	21,308
利益剰余金	169,702	169,723
自己株式	△10,352	△10,206
自己株式申込証拠金	78	10
株主資本合計	192,254	192,435
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,867	7,011
繰延ヘッジ損益	19	13
為替換算調整勘定	△10,918	△6,430
在外子会社の年金会計に係る未積立債務	△1,054	△1,094
その他の包括利益累計額合計	△6,085	△500
新株予約権	115	82
少数株主持分	1,174	1,203
純資産合計	187,459	193,221
負債純資産合計	337,051	346,072

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位: 百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
売上高	73,786	83,979
売上原価	43,346	49,837
売上総利益	30,440	34,142
販売費及び一般管理費	25,378	27,644
営業利益	5,062	6,497
営業外収益		
受取利息	30	32
受取配当金	371	431
持分法による投資利益	163	310
受取賃貸料	122	134
デリバティブ評価益	42	1,025
その他	620	287
営業外収益合計	1,351	2,221
営業外費用		
支払利息	415	361
為替差損	120	1,114
その他	1,389	1,734
営業外費用合計	1,926	3,210
経常利益	4,487	5,508
特別利益		
有形固定資産売却益	—	1,031
投資有価証券売却益	—	16
受取賠償金	56	—
特別利益合計	56	1,047
特別損失		
固定資産除却損	—	339
投資有価証券評価損	389	—
ゴルフ会員権評価損	6	2
特別損失合計	395	342
税金等調整前四半期純利益	4,148	6,213
法人税等	1,681	2,157
少数株主損益調整前四半期純利益	2,466	4,056
少数株主利益	31	33
四半期純利益	2,434	4,023

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,466	4,056
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△637	1,026
繰延ヘッジ損益	△2	0
為替換算調整勘定	△2,913	4,178
在外子会社の年金会計に係る未積立債務	41	△40
持分法適用会社に対する持分相当額	△11	422
その他の包括利益合計	△3,523	5,587
四半期包括利益	△1,056	9,643
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,081	9,608
少数株主に係る四半期包括利益	24	35

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内 食料品製 造・販売	国内 その他	海外 食料品製 造・販売	海外 食料品 卸売	計		
売上高							
外部顧客への売上高	39,018	1,998	10,669	22,100	73,786	—	73,786
セグメント間の内部 売上高又は振替高	305	3,121	1,642	42	5,112	(5,112)	—
計	39,323	5,120	12,311	22,142	78,898	(5,112)	73,786
セグメント利益	1,562	395	2,242	1,085	5,285	(222)	5,062

(注) 1. セグメント利益の調整額 △222百万円は、主に全社費用配賦差額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内 食料品製 造・販売	国内 その他	海外 食料品製 造・販売	海外 食料品 卸売	計		
売上高							
外部顧客への売上高	39,779	2,214	13,433	28,551	83,979	—	83,979
セグメント間の内部 売上高又は振替高	258	2,992	1,884	76	5,212	(5,212)	—
計	40,038	5,206	15,318	28,628	89,192	(5,212)	83,979
セグメント利益	1,358	403	3,040	1,488	6,291	206	6,497

(注) 1. セグメント利益の調整額 206百万円は、主に全社費用配賦差額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(収益認識基準の変更)

「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間より、一部の国内連結子会社につきまして、収益認識基準を変更しております。

前第1四半期連結累計期間については、当該会計方針を遡及適用後のセグメント情報となっており、「国内 食料品製造・販売」において売上高は3億6千万円増加しており、セグメント利益は1億4千4百万円増加しております。